

G

参考書類等三

陵寢林所在地ニ関スル刑罰令

1-1900

0398

禁地ニ関スル法令

大清律戸律田宅

盜耕種官民田

凡他人ノ田(園地上)ヲ盜耕種スル者ハ(田主ニ告ケス)一畝以下  
笞三十 五畝毎ニ一等ヲ加フ、罪ハ八十ニ止マル、荒田ハ一等  
ヲ減ス、強ナル者ハ(田主ニ由ラス)各(熟田、荒田)一等ヲ加フ、  
官ニ保ハル者ハ各(熟田、熟田ヲ盜耕或ハ)又二等ヲ加フ(仍所得  
ヲ追フ)花利(官田)ハ官ニ歸シ(民田)ハ主ニ歸ス、

園陵ノ樹木ヲ盜ムモノ(大清律例)喜慶九年

凡園陵ノ樹木ヲ盜ム者ハ杖百、若シ他人ノ墳墓内  
ノ樹木ヲ盜ムハ杖八十、若シ贓ヲ計ルニ奉罪ヨリ重キモノハ

各盜罪一等ヲ加フ(帝王ノ陵ニ圍アリ故ニ園陵、園陵ト云フ即チ重  
杖フルニ重シ)禁地ナリ、樹木、葭藁、物ナリ、諸官物

條例一、凡ソ山前山後各禁限アリ、紅橋以内外、樹株

ヲ盜斫シ土ヲ取リ石ヲ取リ、窟ソ用イテ燒造シ、火ヲ放チ  
山ヲ燒ク者ハ大祀神御物律ニ比照シ斬奏シテ是ト集

シ請フ、徒ソル者ハ近邊ニ焚キテ軍ニ充ツ、若シ紅橋以外  
ノ官山界限以内外ハ投棄シ採樵スルヲ除イテハ仍チ日

例ニ照シテ禁止シ庸ユルコト母レ、並ニ民間ノ窟窿ヲ修理  
シ土ヲ取リ坑ヲ創スルハ杖九十及ハズ、及ビ自種私樹ノ

斫取スル者ハ一概ニ禁セサルノ外、其官樹ヲ盜斫シ山ノ  
内イテ石ヲ採リ地ヲ坑リ濠ヲ成リ、窟ヲ用イテ燒造シ

火ヲ放チテ山ヲ燒クモノアレバ紅橋以外白橋以内外ニ在ルモ

中製

十二

ハ所紅橋ニ照シテ一等ノ減首タルモハ近辺ニ卷レテ  
重ニ免フ。徒犯ハ杖百。徒三年。如シ白橋以外青橋  
以改ニ在ルモハ首タル者ハ杖百。徒三年。徒犯ハ一等ノ減  
杖八十。徒二年半ト為ス。

青橋以外官山内ニ於テハ首タルモハ杖九十。徒二年  
半。徒犯ハ一等ノ減杖八十。徒二年。贓ヲ計ルニ徒罪  
ヨリ重キモノハ各一等ヲ加フ。官山ノ界外ハ二十里以外ニ  
在リ即チ二十里ノ以テ限トス。若シ二十里以内ニ在リテハ即  
チ官山ノ止ニ所ノ以テ限ト為ス。兵賄ヲ受クル  
故縱ニ如シ奉犯罪ニシテ軍ノ徒ニ應スル者ナレハ凶共  
ト同罪

欽定大清會典事例 九四五卷

系定スル陵寢外圍ノ牆外ハ周圍毎里紅橋三里ヲ立テ界  
ト為ス。撫採耕種ヲ禁ズ。紅橋四十歩ヲ距テ、白橋ヲ  
設ク。又白橋十里外ニ於テ青橋ヲ設ク。禁牒ヲ上テ懸ケ  
軍民人等ノシテ青橋内ニ於テ土ヲ取リ石ヲ取リ金玉ヲ設ケ  
炭ノ燒クコトヲ得ザラシム。禁ニ違フ者ハ罪ヲ論ス。

大清會典 九六。卷

陸寢禁令 順治十年 議准

陵寢ノ官負、兵丁、匠役、住ル所ノ房屋ニシテ風水ニ礙テ  
ルモノハ悉ク遷移セシム

順治十三年 定

陵山ノ周圍界ノ立テ界内ノ撫採ヲ禁止ス

甲製

雍正九年諭

福陵紅門前大路ニシテ房瓦ノ遷移スルニ至ラバ地畝ノ耕種スルヲ禁止シ、房價ヲ賈統ニ地畝ノ補還スルヲ着ル、

乾隆十五年奏准

昭陵四面介塚ヲ設ケテ守護スルコト福陵ノ制ノ如シ

同四十二年

特命大臣謹ニテ陵寢附近地方ニ於テ境外教農ヲ查出ス、俟ニ遷移セシメ官ハ葬費ヲ給ス

又議准

永陵ハ紅橋二十丈ノ外、於テ白橋六十四ヲ設ケ白橋十里ノ外ニ於テ青橋三十六ヲ設ケ

福陵ハ紅橋二十丈ノ外、於テ白橋二百六十ヲ設ケ

白橋十里ノ外、於テ青橋四十ヲ設ケ

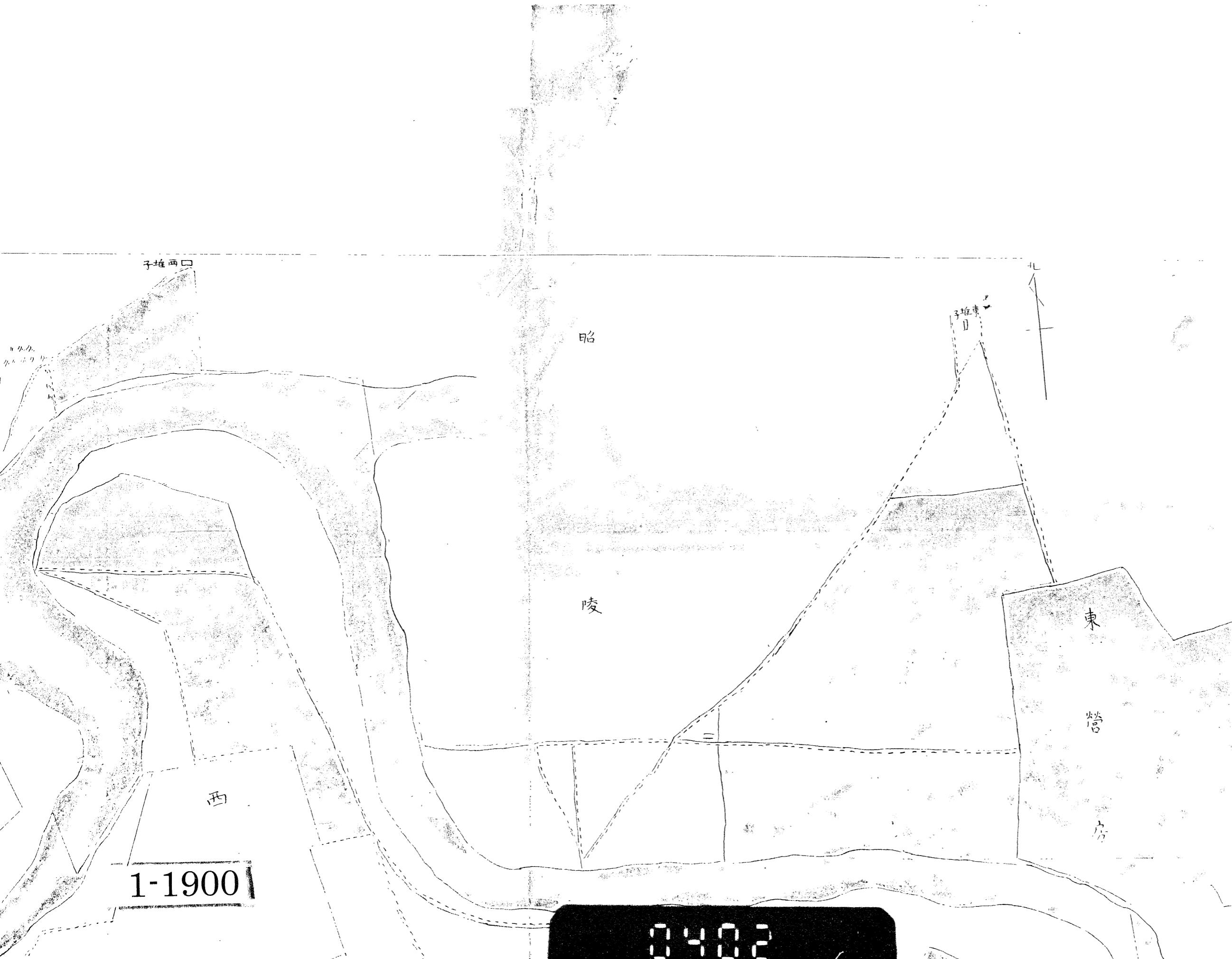
昭陵ハ南北西三面ハ紅橋、二十丈、東面ハ紅橋ノ十餘丈ノ外ニ於テ共白橋九十ヲ設ケ、白橋ノ十里ノ外ニ於テ青橋四十ヲ設ケ、凡ソ白橋ノ内ハ推抹耕牧及行走葬席等ノ事ヲ禁止シ、青橋ノ内ハ窰ヲ設ケテ灰ヲ燒クコトヲ禁止シ、均シク橋上ニ帷ヲ懸ゲテ示禁ス

光緒四年

(同治八年、委シク調テ禁ルコトアリ)

耕牧推抹ヲ准サズ、該處ノ地畝ハ向キニ開荒ニ係リ、田民、耕種スルコト年アリ、並ニ著シク各熟地ヲ已報スルヲ查明シ、膏テ利ニ升リト否トヲ辯スル無ク均シク地ヲ擇ヒ葬補シ以テ體恤ソ示ス、

甲製



子堆西口

昭

子堆東口

陵

東

塔

房

西

1-1900

0402



陵

東

營

房

西

營

園花御世

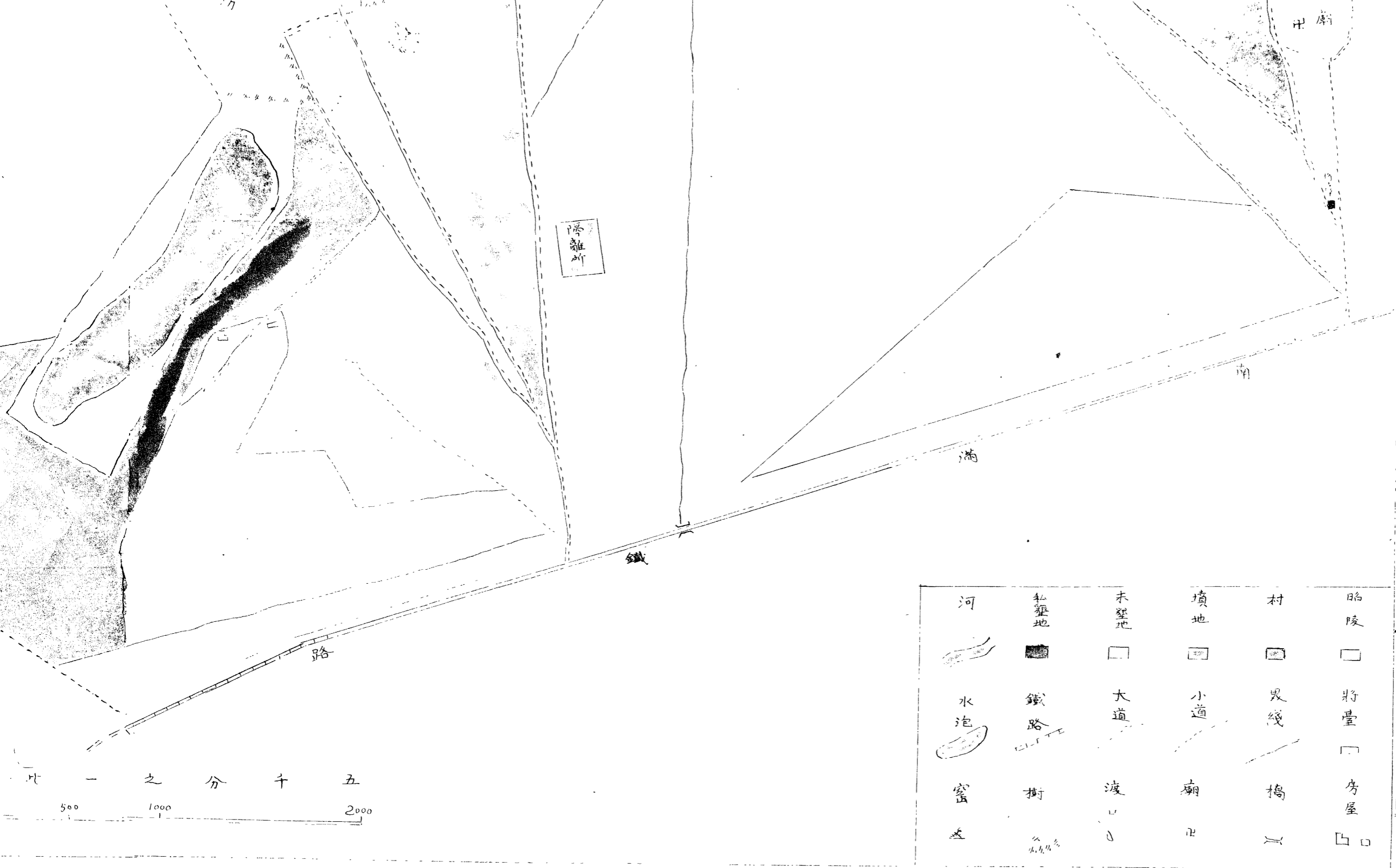
関帝  
廟

房

陽  
離

1-1900

0403



塔  
離  
所

中  
廟

南

滿

鐵

路

比 一 之 分 千 五  
500 1000 2000

河	私墾地	未墾地	墳地	村	昭陵
水泡	鐵路	大道	小道	畝綫	將臺
窟	樹	渡	廟	橋	房屋

漢斗模範公司租地全圖

漢斗模範公司  
租地全圖

1-1900

0404



1-1900

0405





菅

西

菅

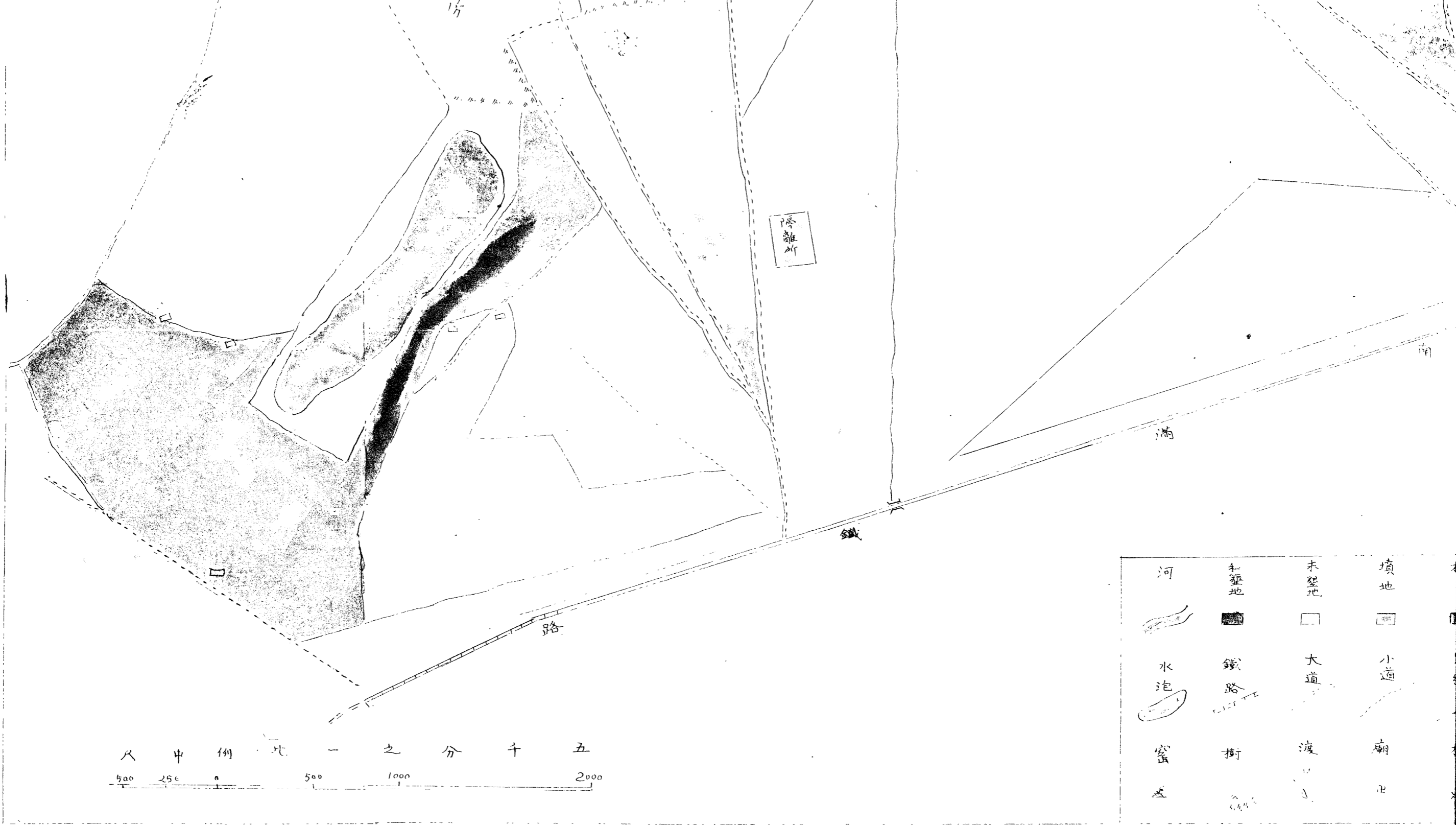
園花御中

房

澤

1-1900

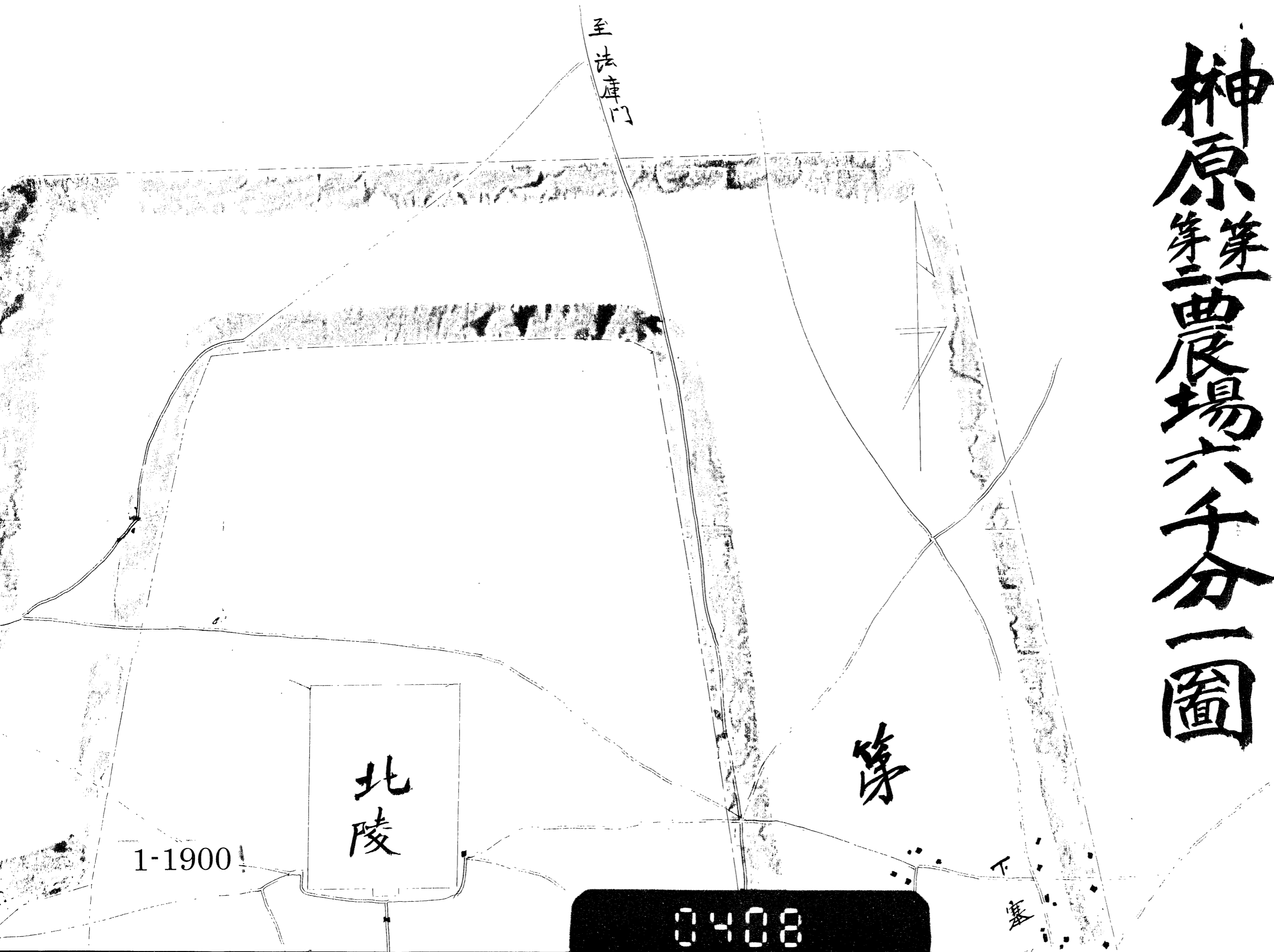
0406



1-1900

0407

# 神原第一農場六千分一圖



至法庫門

北陵

第

1-1900

下塞

0408

# 千分一圖

北陵

築

下  
塞子

二

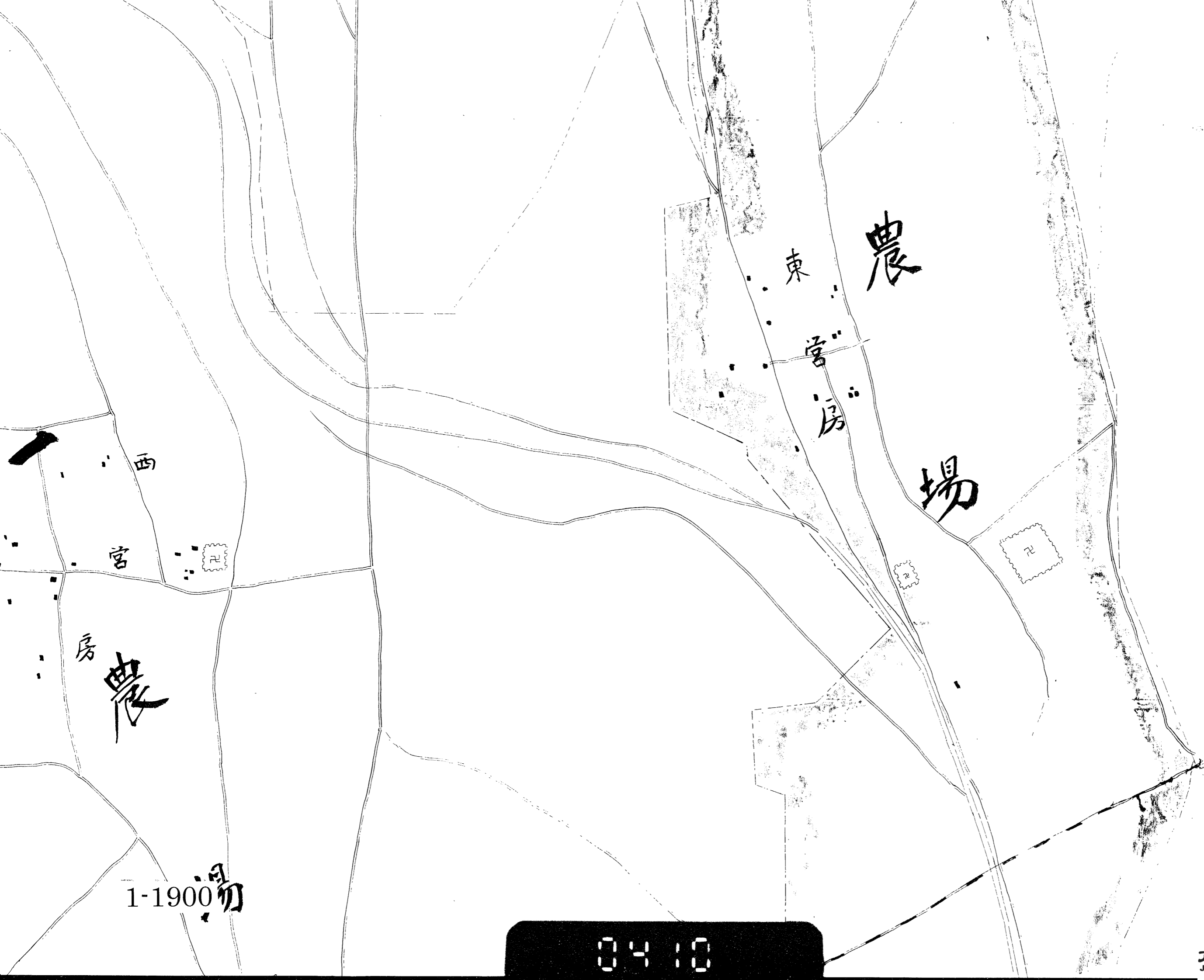
東

農

宮

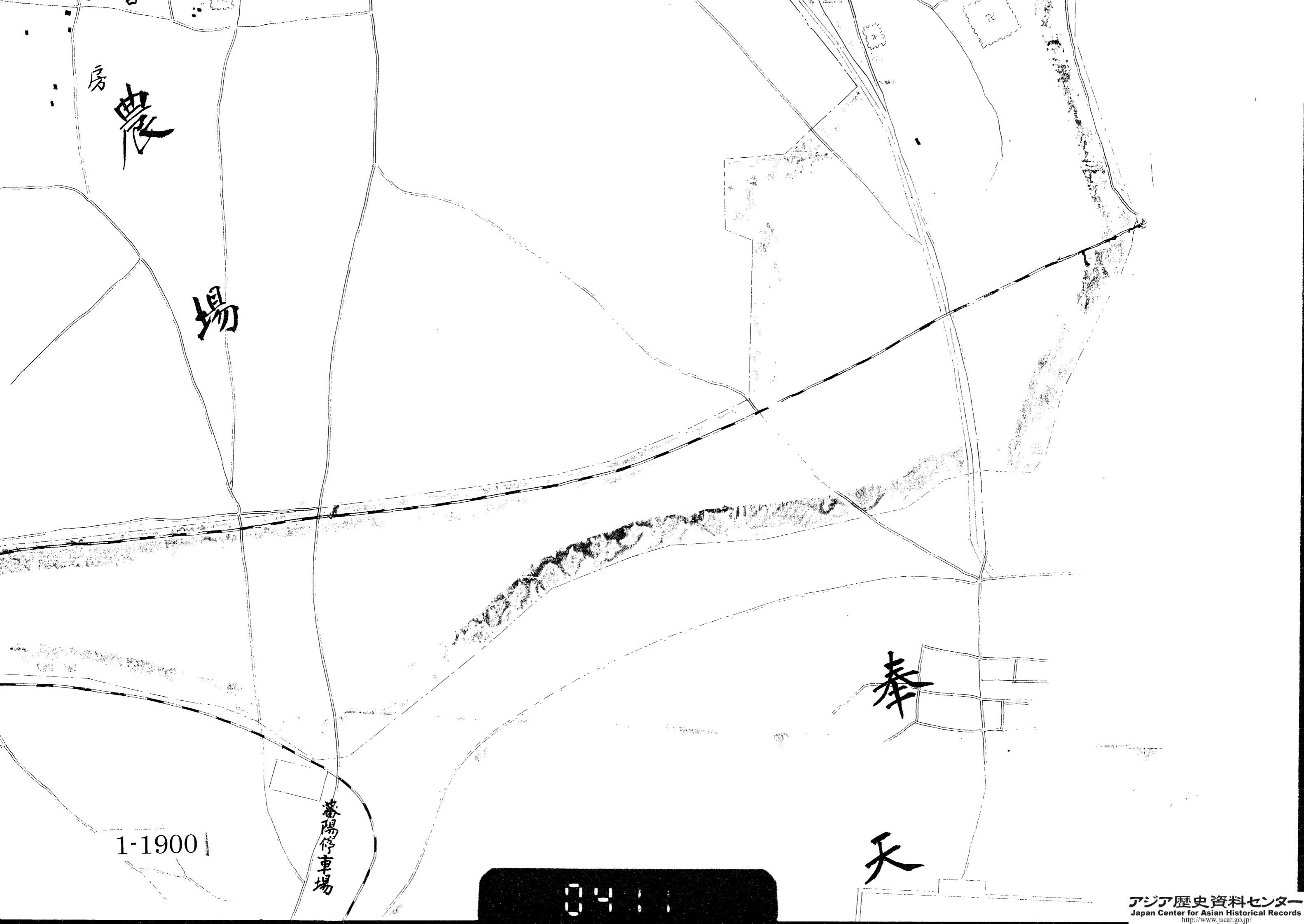
1-1900 |

0409



1-1900 湯

0410



農

場

奉

天

藩陽停車場

1-1900

0411



1-1900 |

0412

至法庫門



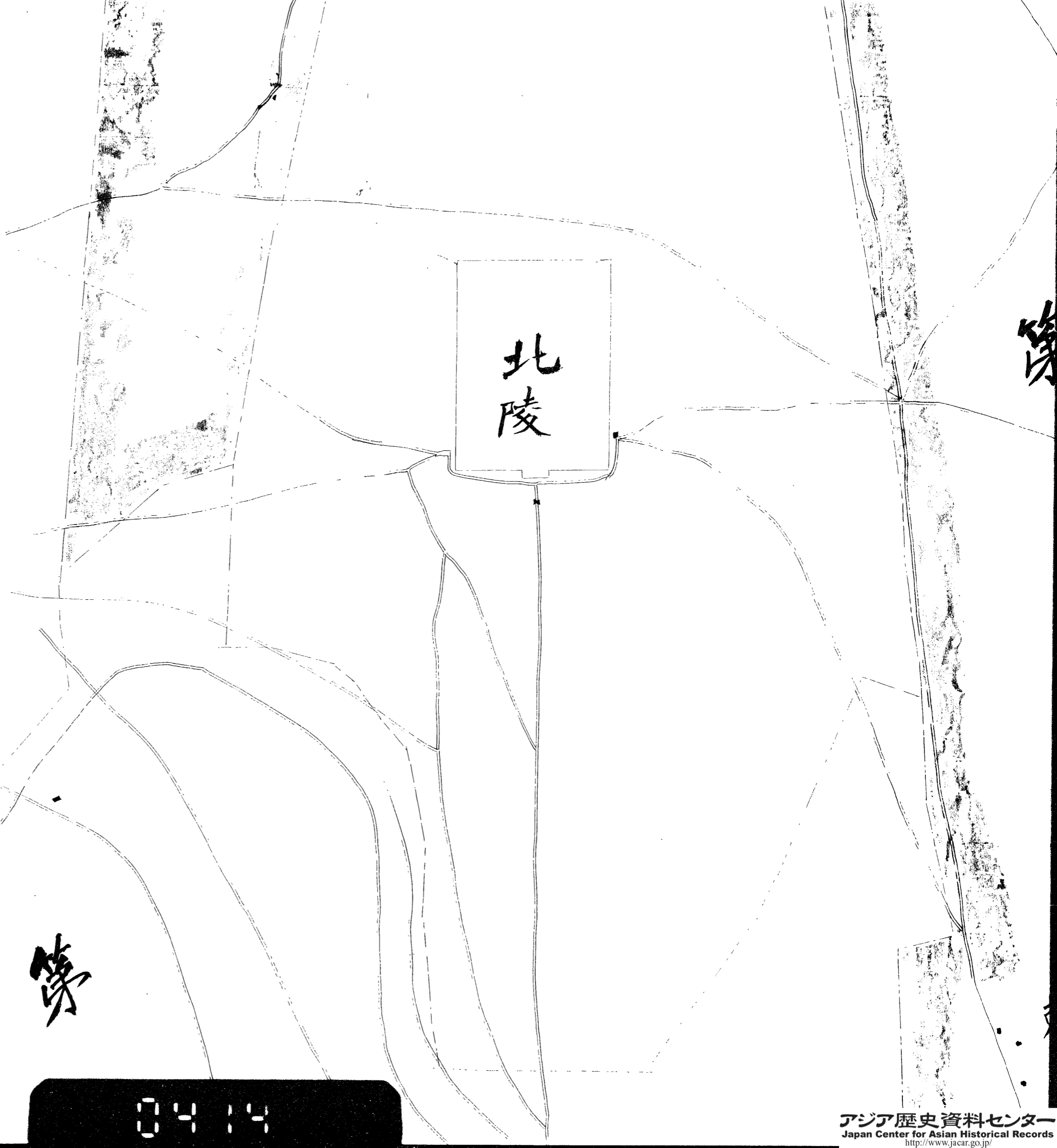
第

北陵

1-1900

0413





北陵

集

1-1900

0414



集

西

宮

房

豊

1-1900

0415



宮

房

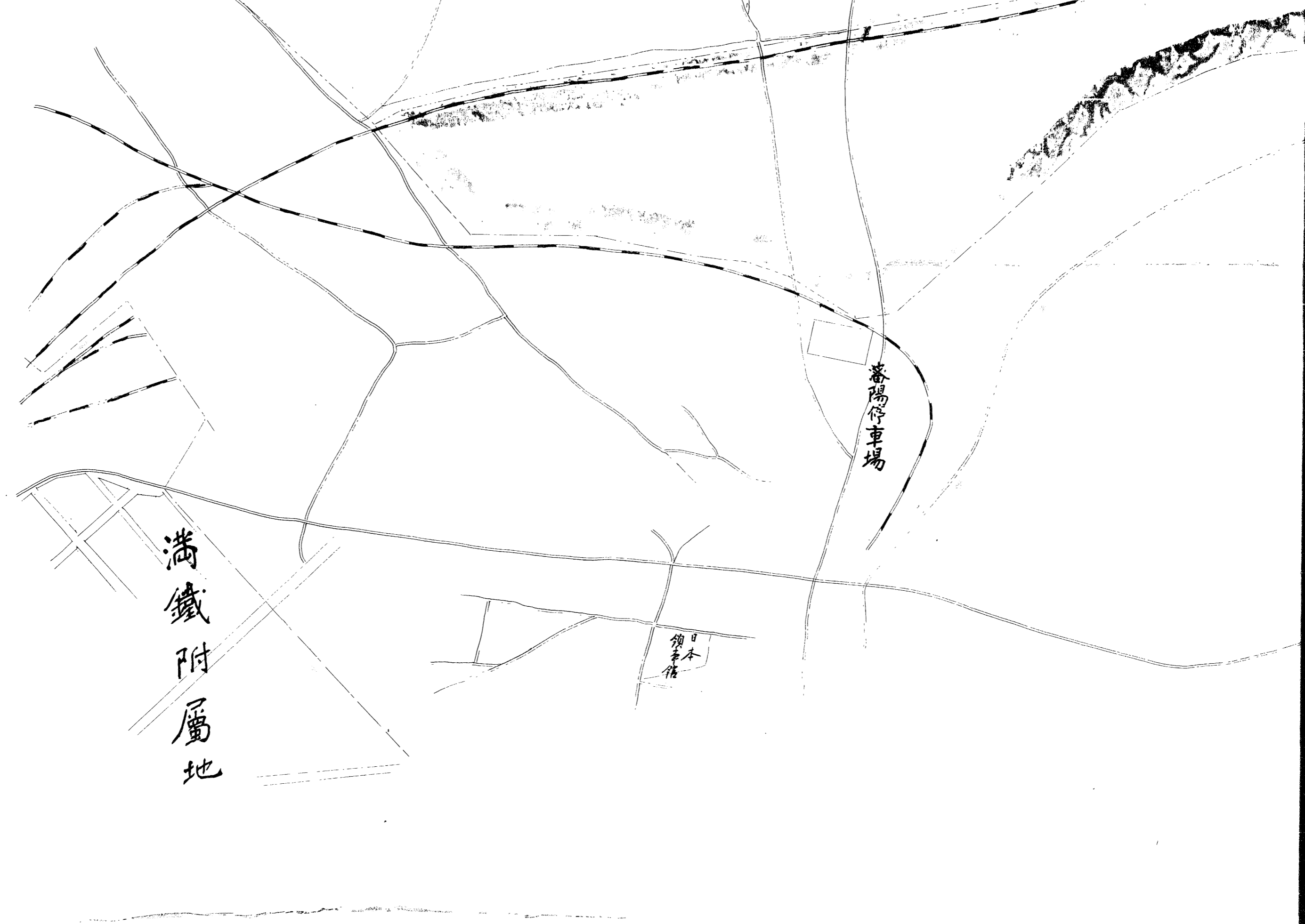
農

場

藩陽停車場

1-1900

0416



1-1900 |

0417

二萬五千畝

柳原曲尺場全圖

約壹萬五千町步  
四千五百萬坪

青線園月  
青橋界内

東二台子西  
南保安寺村

三台子

第

至長春

陸軍茅  
二混成  
地協駐紮

白橋界内

昭陵中北陵

1-1900

至法  
庫門  
台子

臺

小寒屯

塙

白椿界内

昭陵  
中北陵

1-1900

0419



皇

端

小寒屯

白椿界内

昭陵 甲北陵

第

東

墓

地先塚

至北京

瀋陽停車場

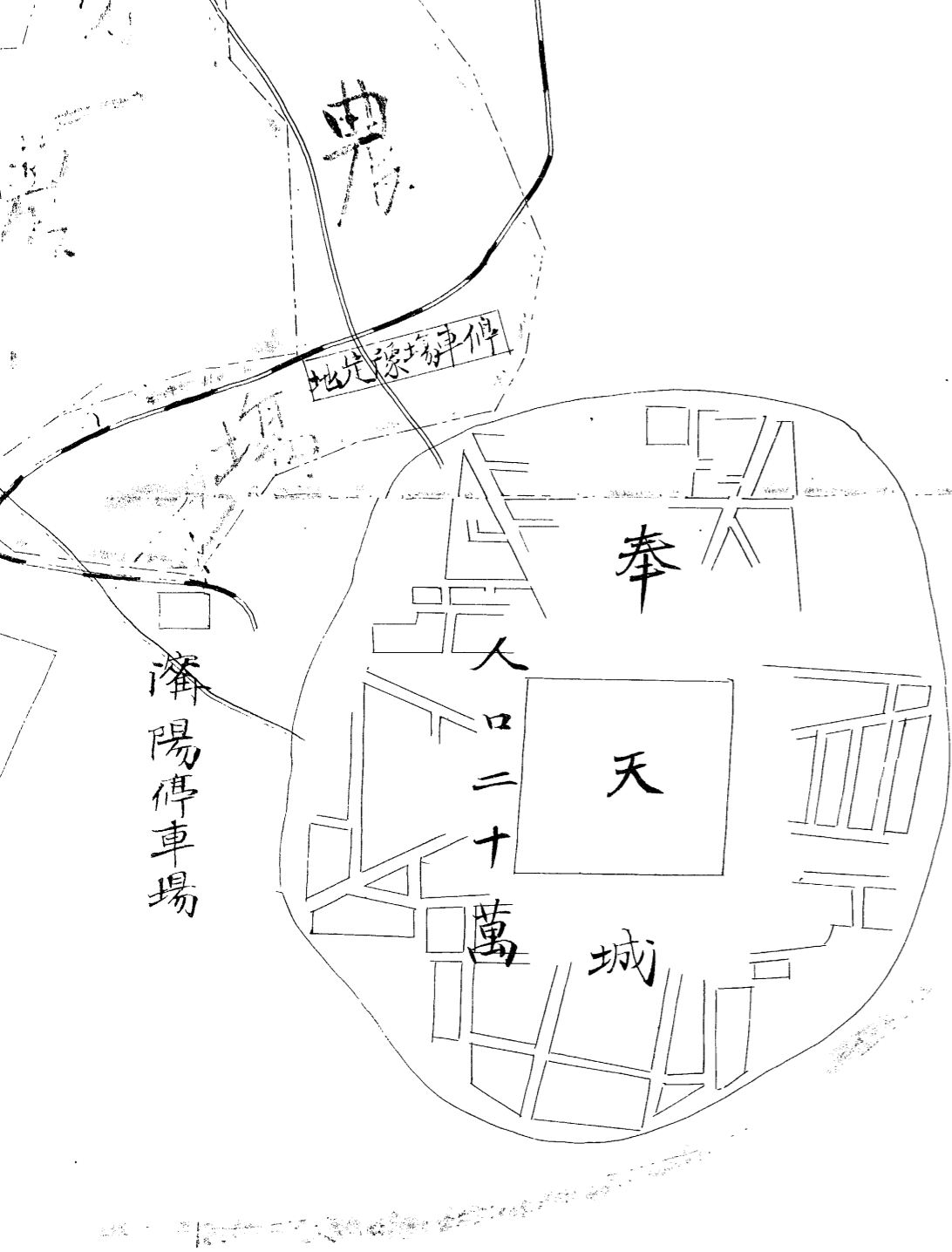
滿鐵附屬地

奉天停車場

1-1900

042





周... 奉... 界... 精... 白... 精... 外... 五... 里... 二... 年...  
 ... 後... 其... 地... 仰... 不... 照... 德... 然... 地...  
 ... 往... 約... 十... 里...  
 ... 西... 區... 老... 儲... 大... 清... 金... 典... 六... 二... 卷... 二... 第... 一... 章...

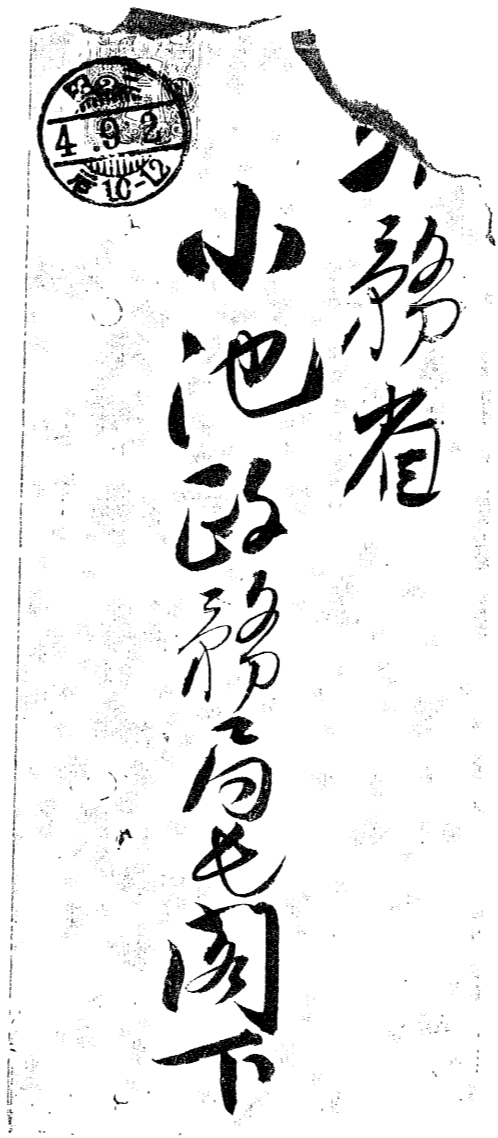
1-1900 |

0423



1-1900 |

0424



1-1900

0425

芝浦小芝飯口  
柳島正徳  
有元

1-1900

0426

榎 尔忠坊内

おん 蒼々 古清榮  
之儀 為 國家 爲  
公 西 子 多 存  
君 皆 也 國 六 乃 特 公  
高 也 古 回 情 公 子  
古 難 國 之 道 道 思 也  
多 之 也 古 多 美 徳 也  
多 古 多 存 也 存 也

1-1900

0420

此礼者乃に於て片敷  
 己中上よりかき儀も  
 多き波身多し層々  
 此御中より人知れ  
 有下はひも本年  
 は御者にもり知の  
 此乃に於てありたぬ  
 一塔より起りたる  
 のは邪魔中上より  
 は却て立廻りあり  
 一欠あり素直に  
 中上よりかき儀も  
 此礼者乃に於て片敷  
 有下はひも本年  
 は御者にもり知の  
 此乃に於てありたぬ  
 一塔より起りたる  
 のは邪魔中上より  
 は却て立廻りあり  
 一欠あり素直に  
 中上よりかき儀も  
 此礼者乃に於て片敷  
 有下はひも本年  
 は御者にもり知の  
 此乃に於てありたぬ  
 一塔より起りたる  
 のは邪魔中上より  
 は却て立廻りあり  
 一欠あり素直に  
 中上よりかき儀も

此書讀をたしむる事

色に因らむは然  
るに之由り  
置るは保衛を  
要するに領土  
と稱する意見の  
きこはるは宜し  
領土の方々か  
書類を以て領  
土と稱するは  
大なる權利を  
有するものな  
りたるものな  
るに因らむは  
是れを以て領  
土と稱するは  
是れを以て領  
土と稱するは

1-1900

0429

以てと曲けて一社  
 書類は固く見るとも  
 有るなり  
 私のお母が猫かくと  
 仕掛やれぬわあ今  
 日実業と子をつけぬ  
 ても多し用田指を欠  
 き陪給をおくこと  
 多く誠め石寺とわが  
 書中天領予知側秘  
 見給は珍人と一より十  
 名目鏡より法悦ん  
 ぬは物来しとヤ上  
 しくより外は元々  
 山名神の之れ有り  
 といふ  
 岩崎日記と 和の素  
 行

1-1900

0430





第  
四  
門

小池政務局長閣下

敬  
啟  
政  
務

此の如く、  
向ふに、  
九月、  
九月、

小池政務局長閣下

1-1900

0432

内務省農園課  
記

電信課長 法

大臣 五五 暗

奉天支監署九月三十日付九五五

次官 大隈外務大臣 矢田保領事代理

水一七一号

第 四 門

通商 人事 會計 文書

參政官

副參政官

要復書

榊原農場問題解決方、園と原口園一個  
梅三郎等、於支那側主として瀋陽知事  
ト交渉レ、(一)金二十萬圓、(二)蒙古、於土地百方  
(三)興業地方、於金五 要ナル二百方、博愛、四園  
傷者、榊原、支付し且、(四)興業、於移順、五、  
鐵道敷設権獲得方、十分在力スルコト等、條  
件、内相談具、徑、一兩日中、帰奉ス、キ榊

原ノ同意ヲ俟テテ決定スル迄、交渉取匠トシ、由中  
考考迄者、至ニ滿鐵ヲ入手セリ、為念申候、

1-1900

0433

内務省 陸軍省 農商務省 文部省 司法省 逓信省 大蔵省 海軍省 陸軍省 文部省 司法省 逓信省 大蔵省 海軍省

電信課長 法

奉天 大正四年十月四日 大五

夫田總領事代理

大臣 次官 官 大隈外務大臣

通商

人事

會計

文書

第7門

參政官

副參政官

往電力一七二号、開レ十月三日細梅原口西人榊原ヲ帶  
同來館シ榊原ハ該条件ニテ農場ヲ手雜スニテ  
浴リ居ルニ付本官ニテテ其即業ニ賛成ナラハ榊原  
ヲ況得テテテ名申出テテ本件ニ付テハ本年三月  
十六日附様密カセテ号 拙位等、依リ附、重難シ且  
キル週リノ事情ニ之レテ且原口等ノ言フ所ニ依レハ農  
場ノ經營モ亦未餘、有利ニテモテテ 候補モテ中村

南滿鐵道修築ニ於テモ農場ヲ引交フルコトヲ望ム  
右妥協ノ感ニ其ハル様ノ意向ニ本官一應リヨシ  
況示シテモ今後本官ニ於テ引後キ 本年十月  
二日附様密カ一三〇号貴位ノ趣名ヲ體シ右様ノ条  
件ニ妥協感ニ其方各カナルモ是支ナキヤ陸軍側  
ニ軍率上ノ理由ニ基キ日農場ヲ本邦人側  
ニ在リセシメテテテテテテテテテテテテテテテテ  
何分ノ義理電訓ノ情ヲ

電報

政務員

第 一 〇 七 号

大隈大臣

在奉天  
矢田總領事代理

才一。号

貴電第一七五号ニ関シ本件ハ

中身電第一七一号ノ記載ニ通リノ條件

ニテ商議ノ纏ムルコト好都合ト思召セ

外務省

ラルニ付妥協成立方ニ然御盡力アリ

度ニ尤モ客年十二月二日付政機密送

第一三〇号記載ノ第二條件ニ本

件農場地私営禁止竝本邦人優

先着手権ニ関スルニハ強ク條件トシテ

要求スルニモ及ハサルモ考慮ニ入ル置ル方

ヲ然モ細(梅原口等)注意シ置カレ

度

電信課長

大臣

六〇八七

大隈外務大臣

大田總領事代理

奉天發 大正四年十月八日 九日前三四日

次官

政務

第一八二號

通商

人事

會計

文書

要復書

第 7

九月二十九日 柳原農場小作人、雇人 糖澤 茂  
 村同農場、於 湯島 中ノ支那人ヲ 改打 致  
 死セシメタル 旨 當館、自前シタルニ 付直、條  
 審、着手シタル 康馬 支庁 署長ヨリ 十月五  
 日 附 公文ヲ 以テ 本件 裁判ニ 日支 新條約 第  
 五條、依リ 支那 側ニ 之ヲ 傍聴シ 得ル 助金ノ  
 王ノ ナレハ 檢査 廳（此 檢査 事ノ 決シ）ヨリ 員

ヲ 依リ 多キ、付 裁判 期日 通知アリタル 旨 中  
 越 来レリ 本件 犯罪 地ハ 北 陵 附近ニシテ 従前  
 未開 放地ト 認ムル 外ナキ、付 新條約 第五條  
 ノ 適用セラルル 地域 尤モ 一方 被告 住居 所ハ  
 前 放地 内ナリ 以テ 同條 第二項ノ 適用スルキ  
 ナキ 事ト 爲シ 問題ヲ 被告 住居 所地、依リ 決定スル  
 キモノト 爲シ 此ノ 理由ヲ 以テ 右 申出ヲ 拒絶  
 シ 得ル 事ト 爲シ 犯罪 地、依リ 決定スルモノト  
 爲シ 支那 官憲、臨席 傍聴ヲ 許シ 且、之ヲ  
 得ル 事ト 爲シ 後者ノ 場合、ハ 我、於テ 従来 裁判

1-1900

0436

廳等ノ司法機關ヲ認メサリレ成行、願シ發  
 奉廳ヨリノ取員ヲ承認スルノト如何アトカ  
 存セシム、廣教方、於テモ領事官以外、  
 裁判官ヲ置キ同條約第五條ノ裁判ヲ為  
 サシメントノ御意向ヒテ、承ルル、付事  
 此際支那側派遣員資格、同シテモ御論議  
 相成程致シテ、何レモセヨ本件ハ一新事  
 例ヲ用ケ儀ニシテ慎重審議ヲ要スルヲト  
 存スル、甘取扱振ニ同シ何分ノ嘉御電訓  
 ヲ請フ存ス、但、電報ニ同東都督ノ郵報ス

電信課長 林

大臣

次官

政務

通商

人事

會計

文書

參政官

副參政官

要復書濟

奉天及 在南省著 大正五年十月五日 右 電報

矢田佐領事

外務大臣  
 三二五号

久シク  
 愈々方、協議條約九月五日 往電一七一号、条

件ニ修正ヲ加、博豊公司株主佐張煥柏ト耕  
 原正雄代理人原口白梅兩人ト、同ニ支那側ニ於  
 テ日本金二十万円ヲ以テ耕原才一農場才二農場及  
 一切ノ建設物ハ既築未築、水田約百丁步ヲ除ク  
 員收スル起、契約ヲ締結シ当館及瀋陽知事、

認事ヲ得テ不取敢右内考考迄

1-1900

0438



第25869號

附

公第 二九七號

大正四年十二月二日

在奉天

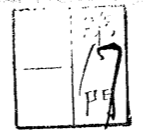
總領事代理領事矢田七太郎

石井

外務大臣男爵石井菊次郎 敬



附  
記  
字  
紙



本件 榊原農場賣戻ニ関スル件  
榊原口聞一ト溥豊公司委託人細梅三  
郎 煥 柏トノ間ニ農場賣戻契約成立  
ニタル次第ハ客月二十二日發往電  
第 二 二 五 號 ヲ以テ大要及稟報候

處今般前記關係者ヨリ本件契約  
寫註附帶條件ニ関スル別約五通  
寫ヲ提出致候ニ就テハ右譯文ト一  
括御参考迄ニ及御送附候條御  
査閱相成度共致申進候敬具  
本信寫送付先在支公使

石井菊次郎

栄生

1-1900

0439

立合同今為振興實業互換利益起見由  
溥豐公司股東委託人張煥柏出資日  
金貳拾萬圓將神原政雄名下原購  
崔潮之溥豐公司範圍田地現稱第一農  
場第二農場並一切建築物全數收買  
自買之後悉歸張煥柏經理不與神  
原政雄相涉特訂詳則七條各執存  
據

第一條  
自立合同簽字實行之日起神原政雄  
所有管理田地權永久拋棄之

神原政雄接租溥豐地段名曰神原第  
一農場並第二農場所所有溥豐公司範  
圍以內統歸張煥柏接收自行清理處  
分永不與神原政雄相涉

第三條  
合同簽字後所有崔潮原交各項文件及  
與神原農場原訂各種契據全數交  
回其契據當面燒棄倘或有遺漏未  
交文據日後發見概作無効

第四條  
合同簽字後雙方分別呈明政府並由  
日總領事蓋印  
第五條

合同簽字後神原政雄於三十日內即將地段內租戶並僱用中外人等一律遷出農場有立會人擔負責任至遲不得逾四十日

第六條

神原農場將租戶遷出並將神原農場原接崔潮所交溥豐公司各種文卷及原訂各種契約交清點收並農場租戶人等遷出後即將此項地價如數交清

第七條

此次契約文字以華文為憑契約照繕二分由雙方各執一份有立會人証明之

神原政雄代理人

細梅三郎 印

原口甫一 印

溥豐公司委託人

張煥柏 印

立會人

江藤豐二 印

趙秀峰 印

大中華民國四年十一月二十二日

大日本正四年十月二十二日

瀋陽縣印

寫

敬覆者接閱  
來函藉悉

貴友柳原政雄君聞故國紳商將自築  
由興京達撫順輕便小鐵路囑鄙人從  
紹該路辦事員擬與合辦倘不能合  
辦擬借給款項或承辦工料至價值  
其他一切條件務必公平以雙方同意  
為目的均不強迫云云屆時務必極力贊  
助向當局設法進行以覆

原口甫一先生  
細梅三郎先生

中華民國四年十月二十二日

張煥彬 印

知道坎事

江蘇豐二 印  
趙秀峰 印

在奉天日本總領事館

敬覆者接閱  
來函藉悉  
貴友神原政雄君擬租昭陵前之水田  
一畝大約百町之譜早已租給佃戶立有  
租帖碍難逐出囑鄙人代向接收者請  
求仍租給佃戶一切規則並照原租帖難  
辦理去々鄙人務必極力贊助進行以  
覆  
原口甫一先生  
細梅三郎先生

中華民國四年十月二十日

張煥柏 (印)

知道此事

江藤豐二 (印)  
趙秀峰 (印)

敬覆者承囑  
貴友柳原政雄君擬在興京北之龍岡附  
近領一公司應領之材木所有一切章程  
遵照中國林務局章程辦理去々惟  
此事慮與敝國林務局章程未合將  
未或另行設法由華商報領如將材木  
報領到手必將經營一切之事宜委託  
貴友純屬商業性質合並預陳以覆  
原口甫一先生  
細梅三郎先生

中華民國四年二月二十二日

張煥柏印

知道此事

江藤豐二印  
趙秀峰印

1-1900

立信樓茲閱於  
先生委託介紹由興京遼撫順小鐵路將  
來修築時或借給款項或辦工料及承  
租水田等事務必按照另函所言之意  
極力進行總期於農場交還以前足以  
表示當局贊助進行之證據致  
原口先生  
細梅先生

中華民國四年十月二十二日

張煥相 印

知道此事

江藤豊二 印

趙秀峰 印

在奉天日本總領事館

立證後今因鄙人與西宮房次郎諸君有  
 田地一段坐落奉天城西大石橋計地壹  
 萬畝擬全數出售核價大洋參拾萬圓  
 特求  
 先生極力贊助俟出售時即由地價內  
 撥付日金壹萬圓其出售期間自立  
 據之日起不得逾四十日倘有特別事宜與此期  
 臨時互商限  
 定之狀據  
 柳原政雄代理人  
 原口先生 查收

中華民國四年十一月二十二日

張煥 柏 (印)

知道狀事

江藤 豊二 (印)  
 趙秀峰 (印)



記文

今回實業ヲ振興シ互ニ利益ヲ交換スル  
目的ノ爲ニ溥豐公司株主ノ委託人張  
煥柏ヨリ日金貳拾萬圓ヲ出資シ神  
原政雄ノ名義ニテ原ト崔潮ヨリ購ヒ  
タル溥豐公司範圍ノ田地ニテ現ニ  
第一農場第二農場ト稱スルモノ及一切  
ノ建築物全數ヲ買收シ買收後ハ悉ク  
張煥柏ノ經理ニ歸シ神原政雄トハ關  
係ナシ特ニ評則七條ヲ訂シ各自之  
ヲ以テ証拠トス

第一條

契約署名實行ノ日ヨリ神原政雄ハ一切

在奉天日本領事館

ノ田地管理權ヲ永久ニ拋棄ス

第二條

神原政雄カ溥豐公司ヨリ接租シ神原  
第一農場及第二農場ト名付ケタル所  
有溥豐公司範圍以内ハ純ニ張煥柏  
ノ接受ニ歸シ自ラ清理處分ヲ行ヒ  
永ク神原政雄ト關係ナシ

第三條

契約書ニ署名後ハ最初崔潮ヨリ交付  
セル各種一切ノ書類及神原農場ト最  
初訂結セル各種契約証據ヲ返還シ其  
契約証拠類ハ面前ニテ燒棄シ若シ或  
ハ遺漏アリテ返還セサル証拠書類今

後發見スルトモ凡テ無効トス

第四條

契約ニ署名後ハ双方各自政府ニ上申ニ同時ニ日本総領事瀋陽縣カ捺印ス

第五條

契約署名後柳原政雄ハ三十日以内ニ地域内ノ小作人及雇用中外人等一切ヲ農場ヨリ立退カシメ立會人ニテ責任ヲ負担シ避ルルトモ四十日ヲ逾ユルコトヲ得ス

第六條

柳原農場ノ小作人ヲ立退カシメ並ニ柳原農場カ最初崔潮ヨリ交附セル溥豊公司ノ各種ノ書類及最初訂結セル各

種契約ヲ全部交付シ一々之ヲ取調ハ受取り並ニ農場ノ小作人等立退キタル後此種ノ地價ヲ全額交付スヘシ

第七條

今回ノ契約書ハ漢文ヲ以テ憑ト爲シ契約書ニ通シ作り双方各一通ヲ執リ立會人ニテ証明ス

柳原政雄代理人

細梅三郎

(印)

原口甫一

(印)

溥豊公司委託人

張煥

柏

(印)

立會人

大日本  
中華民國四年十月二十二日  
大正四年十月二十二日

瀋陽安印

江 藤 豊 二  
趙 秀 峰  
印 印

在奉天日本總領事館

（本館蔵）

1-1900

0449

拝復貴翰拝誦仕候承レハ貴友柳原政雄君敵國紳商將サニ興京ヨリ順ニ達スル輕便小鉄道ヲ築カントスルヲ聞キ乏ト合辦セシコトヲ欲シ若シ合辦ニ能ハサル時ハ資金ヲ貸與シ或ハ工事材料ヲ引渡ケ價格其他一切ノ條件ニ至リテハ務メテ公平ニ双方同意ヲ目的トシ決シテ強迫セズ<sup>去</sup>右該鉄道兼事員ニ紹介方御下命相成拝義仕候其時ニ至ラハ極力御贊助申上當局ニ向ワテ進捗ノ方法ヲ講シ可申此ニ御回答申上候

張煥柏 (印)

原口 一先生  
細梅 三郎先生

中華民國四年十月二十二日

此事ヲ承知ス

江 藤 豊 二 (印)  
越 秀 峰 (印)

拜復  
貴友柳原政雄君昭陵前ノ水田一区ヲ  
租借シタキ由該地ハ約百町許ニテ既ニ  
小作人ニ貸付ケ借地契約ヲ訂結シ  
逐出スコト困難ナルニ付一切ノ規則ハ既  
ニ訂結セル借地契約ニ從ヒ處置スル  
コトトシ引継キ小作人ニ貸與方該土地  
接收者ニ請求方御下命相成拜承  
仕候鄙人必ラス極力贊助シテ御世話  
可申候

張煥柏 (印)

原口甫一先生

在奉天日本總領事館

細梅三郎先生

中華民國四年十月二十五日

此事ヲ承知ス

江藤豊二 (印)  
趙秀峰 (印)

拝復  
貴友柳原政雄君興京北方ノ龍岡附  
近ニテ一會社ノ領シ得ハキ材木ヲ  
領シ度所有一切ノ章程ハ中國林務  
局章程ニ從ヒ處理シタキ旨御申越  
相成拝兼仕候惟タ此事ハ敝國林務  
局章程ニ合ハサル慮ヒ有之候將末或  
ハ別ニ方法ヲ講シ支那商人ヨリ拂下  
ヲ願出テ若シ材木ノ拂下ヲ得タルトキハ  
經營一切ノ事柄ハ貴友ニ委託シテ純  
然タル商業性質ノモノトラシムヘク併セ  
テ豫告申上候

張煥柏 (印)

原口 蘭一先生  
細梅三郎先生

中華民國四年十一月二十二日

此事ヲ承知ス  
江藤 豊二 (印)  
趙秀峰 (印)

1-1900

0452

先生ヨリ紹以方御委託相成候将来  
興京ヨリ撫順ニ至ル小鐵路修築ノ時  
或ハ資金ヲ貸與シ或ハ工事材料ヲ引  
受ル件及水田ヲ借地スル等ノ事務  
ハ必ス別信ニ申上候意ニ依リ極力進  
行ニ農場還附以前ニ當局ニ於テ進  
行ヲ贊助スルノ証拠ヲ表示セシメンコ  
トヲ期レ可申後日ノ証拠トシテ茲ニ書  
状ヲ以テ申上候

張煥柏 (印)

原口南一先生  
細梅三郎先生

在奉天日本總領事館

中華民國四年十月二十二日

此事ヲ承知ス

江藤豊二 (印)  
趙秀峰 (印)

(光天印)

今回故人ト西宮房次郎諸君トノ所有  
 ニ係ル奉天城西大石橋ニ在ル合計志  
 萬畝ノ地ヲ全部賣却セントス價格  
 大洋參拾萬圓ニシテ特ニ先生ノ極  
 カ贊助ヲ求ム賣却ノ時地價ノ内ヨ  
 リ日金貳萬圓ヲ交付シ其賣却  
 ノ期間ハ契約成立ノ日ヨリ四十日ヲ  
 越フルヲ得ス若シ特別事故有リ確  
 カニ其証拠アルモノハ稍ヤ期限ヲ延  
 期スルコトヲ得其時ニ臨ミテ互ニ相  
 談協定スヘシ此ニ後日ノ爲一札如件  
 張煥柏印

榊原政雄代理人

原口甫一先生

中華民國四年正月二十二日

此事ヲ承知ス

江藤豊二印  
趙秀峰印



機密

第 一 号

大正四年十二月十日 神原農場事務所

委任状 (写)

今更支那側より前主権者が傳出せる  
 豊原村より繼承せし一切控利即ち右  
 橋界内昭陵餘地全部を整理し  
 管理せし譲り受けたる一切を希望し  
 對し左に別々存する余ノ要求範圍に於  
 て支那側と交渉し且つ假令は締  
 結し控利シテ茲ニ細梅三郎原田角一  
 両氏ニ委任す

神原農場事務所

- 一 興京森林の百方地ノ伐採權ヲ余ニ  
 許サスルコト
- 二 興京極順向輕便鉄道布設令并  
 權許可
- 三 鄭家屯方面ノ土地百方地提供
- 四 日金式格万圓提供
- 右四ヶ條ヲ實行スルトノ申出ガニ對  
 シ余ノ要求ハ
- 一 興京森林の百方地ノ伐採權ヲ余ニ  
 許サスルコト
- 二 興京極順向輕便鐵道布設權  
 或ハ布設權ノ實益ニ於テ同等權

利ヲ獲者ニ許スルコト  
三由岩傍ノ既成水田及ビ水田豫定地  
百餘町歩現況約ノ通リ保留スルコト  
四日金比拾水為田ヲ余ニ提出スルコト  
右四ヶ條ヲ有効ニ爲行セシムル範圍ニ於  
テ支那側ト假設シテ約ヲ締結スルコト  
大正四年十月十九日

榊原政雄

細梅三郎殿  
原口一殿

榊原農場事務所

1-1900

0496

神奈川  
名口ニ其  
一丸ノ契約  
ナリシ事  
ニ係ル

支那側ト契約履行ノ場合

第一 全部ノ権利ヲ富方ニ提供履行ノ

後ナラザレバ土地引渡シ難シ

第二 條件中ノ鉄道ニ全ク布設権ト同等

ノモノナラザレバ可カラズ

彼等が富方ニ代リテ布設権許可

出願センモノヲ内定員ニシテ儘全部

富方ニ提供スルコト

第三 建物ノ殆トシテ全部水田小沢人ニ必要

ナル建物をツキ渡スルモノナシ

神原農場事務所

第四 水田永租権

大正四年十二月十七日  
柳原



森林鉄道共済協定ノ進行ヲ示シテ  
鉄道ニ巡接使ノ許可ニ多分一週同以内ニ  
運ブベシ。今夜支那側發起代表者ト  
會合借款其他協議ノ答、本森林ニ昨夜  
少差ガ本森林局長ト會見懇談、大東鐵道  
名義合辦形式ニ極メテ困難見込ナシト、  
確カメタルノ故、免モ申テ、局員ヲ實地派遣  
場所ノ選定ヲ為スル中、派送ヲ得テ、故場所  
確定ノ上、協議ノ處置ヲ採ルベシ。  
水田ニ三日内、地面出束次予支那側ニ交

柳原農場事務所

附シ要約ニ答、調査示一班帰ル 鉄道ニ  
豫想以上ノ有利ナリ 詳細報告二三日中送  
候今夜一時立ツ、

(大正四年十二月十日)  
若尾